

まちづくり交付金 事後評価シート
桐間地区

平成19年12月

高知県須崎市

様式2 - 1 評価結果のまとめ

都道府県名	高知県	市町村名	須崎市	地区名	桐間地区
計画期間	平成17年度～平成19年度	まちづくり交付金交付期間	平成17年度～平成19年度		
モニタリング実施時期		事後評価実施時期	平成19年4月～平成19年12月	フォローアップ実施時期	平成20年4月～平成21年3月

1) 事業の実施状況	当初計画どおりに実施した事業	事業活用調査(アンケート調査)
	当初計画から変更した事業	公園(2号:モニュメント レンガ舗装、3号:複合遊具 遊具 カラ舗装、4号:シルター 遊具 芝生舗装)、高質空間形成施設(歩道照明:3箇所 1箇所) 高次都市施設(立体遊歩道:W=3.5 L=90m W=1.5 L=46.5m)、地域創造支援事業(地場物産売場管理棟の建設:60m2 30m2)
	変更した理由、目標、数値指標への影響等	2,3号公園:駅前広場に隣接する公園として施設整備を変更、4号公園:利用目的変更に伴い、イベント広場として施設整備、歩道照明:計画の見直しによる箇所の変更と景観性の向上、立体遊歩道:管理者との協議の結果、施工位置の変更による工法の変更、地場物産売場管理棟の建設:管理棟計画の見直しによる変更 目標:数値指標への影響はなし

2) 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況	指標		達成度			達成見込みの有無		効果発現要因
		単位	モニタリング	事後評価	フォローアップ	あり	なし	総合所見
指標1	須崎 ICの利用車台数	千台/年						関連事業である土地区画整理事業による市街化が須崎 ICの利用車台数の増加に直接貢献していると考えられる。
指標2	くろしおフェアの来場者数	人						地区の代表イベントであるくろしおフェアは定着化し、来場客も増加している。整備目的をイベント広場として整備した4号公園と地場物産管理棟の建設がくろしおフェアの来場者数の増加に直接貢献したと考えられ、関連事業の道路整備も貢献していると考えられる。
指標3	身の回りの生活環境の満足度	%						各公園整備やJR多ノ郷駅と当地区を結ぶ自由通路の整備が地区周辺住民の身の回りの生活環境の満足度を向上させたと考えられ、関連事業である土地区画整理事業や道路整備も大きく貢献したと考えられる。

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		数値			効果発現要因
		単位	基準年度	モニタリング	事後評価	フォローアップ	総合所見	
その他の数値指標1	なし							
その他の数値指標2	なし							
その他の数値指標3	なし							

4) 定量的に表現できない定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 公園を利活用したイベント開催の関心が高まった。 立体遊歩道を利用し、JRに分断されていた南北間の市街地住民の交流が図れるようになった。
-------------------------	--

5) 実施過程の評価	評価項目	実施内容	実施状況			今後の対応方針等
	モニタリング	なし		<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり実施できた 予定していなかったが実施した 予定したが実施しなかった・できなかった 		
住民参加プロセス	当市市街地のまちづくり計画の策定を目的に平成10年7月から継続的に開催されていた「まちづくり委員会」(商業者、農業者、事業家、商工会議所、市幹部職員で構成)の中で、当地区の事業計画や整備に関する説明会等も行うことを都市再生整備計画に記載したが、同委員会が当初の目的に達し、平成17年度以降は会が開催されなかったため、実施できなかった。		<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり実施できた 予定していなかったが実施した 予定したが実施しなかった・できなかった 			現在運営されている「まち全域がサービスエリア構想」(SAT構想)で実施する。
持続的なまちづくり	当市市街地のまちづくり計画の策定を目的に平成10年7月から継続的に開催されていた「まちづくり委員会」(商業者、農業者、事業家、商工会議所、市幹部職員で構成)の中で、当地区の今後のまちづくりについての検討も行うことを都市再生整備計画に記載したが、同委員会が当初の目的に達し、平成17年度以降は会が開催されなかったため、実施できなかった。		<ul style="list-style-type: none"> 予定どおり構築できた 予定していなかったが構築した 予定したが構築しなかった・できなかった 			現在運営されている「まち全域がサービスエリア構想」(SAT構想)で実施する。

様式2-2 まちづくり交付金の成果及び今後のまちづくり

桐間地区(高知県須崎市) まちづくり交付金の成果概要				
まちづくりの目標	・何度も訪れたい魅力に満ちた空間づくり ・来街者をスムーズに誘導する安全で快適な歩行者動線づくり	まちづくり交付金の代表的成果	須崎ICの利用車台数(単位:千台/年)	(H11) 1,204(H15) 1,264(H19)
			くろしおフェアの来場者数(単位:人)	(H11) 13,000(H15) 18,000(H19)
			身の回りの生活環境の満足度(単位:%)	(H11) 12.2(H15) 36.0(H19)



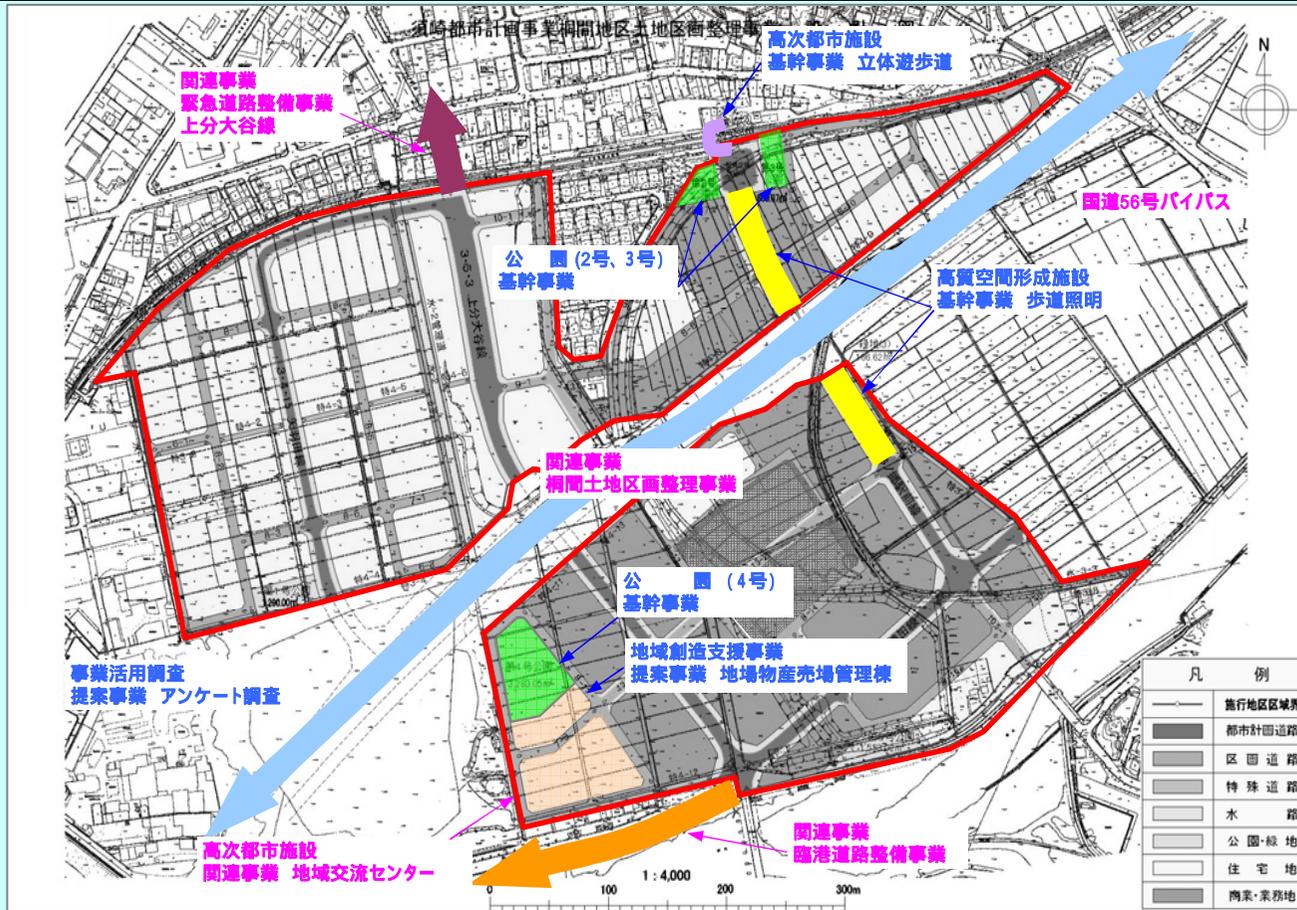
歩道照明



4号公園



地場物産売場管理棟



立体遊歩道



2号公園



3号公園

今後のまちづくりの方策
(改善策を含む)

当市を貫く高速道路計画は、須崎東ICから西の整備は国の直轄事業により進められており、平成23年に中土佐ICまで延伸する予定で、供用開始後は当市は通過点となる可能性が高く、市内の経済に与える影響が懸念される。そこで「まち全域がサービスエリア構想(SAT構想)」とし、当市のまち全域をサービスエリアに見立て、高速道路利用者を市内のサービスエリアの機能を有する場所へ誘導し、交流人口の増加により地域の活力を生むとともに経済的効果を生じさせる。具体的な事業展開としては、当市が事業主体となり、「すさきサービスエリアタウン推進事業」、「都市計画道路青木の辻線(南北道路)整備事業」等が計画されている。